

所神。璽官廳ヨリ温明殿へ被奉渡。上卿參議辨次將皆モトノ供奉人ナリケリ。三箇日被行臨時御神樂ケリ。

〔吾妻鏡〕元曆二年○文治元年五月五日丁亥爲可奉尋寶劍之。以雜色爲飛脚下知參州○源賴

〔吉記〕文治元年五月六日今日爲報養平家追討事被行廿二社奉幣宣命之趣去三月廿四日魁首以下生虜既多神鏡御璽安穩歸御神□□□所致也但爲凶黨寶劍投海底訖冥德可顯現之子細等也神宮依別御願被獻神馬并金銀幣又可被立公卿勅使之由被載辭別云云

〔醍醐雜事記〕文治元年六月廿二日平家生取等自坂東將上入京○中略寶劍者被問內大臣○宗盛之處最初者奉伊津久志麻乃神之由陳申云云後者內大臣掬手入海落入失了云云

〔增鏡おびるの下〕御門はじまりてより八十二代にあたりて後鳥羽院と申おはしき○中略壽永二年八月廿日御とし四にてくらゐにつかせたまひけり内侍所神璽寶劍はじやうゐの時かならずわたる事なれどせんでい○安徳つくしにいでおはしにければこたみはじめて三の神器なくてめづらしきためしになりぬべし後にぞ内侍所えるしの御箱ばかり歸りのぼりにけれど寶劍はつひにせんでいの海に入給ふ時御身にそへてまづみけるこそいとくちをしけれ

〔禁秘御抄〕寶劍神璽

御劍者○中略壽永入海紛失之後院○後鳥羽御時以後廿餘年被用清涼殿御劍仍以璽爲先而承元○土御門

讓位時有夢想自伊勢進之已來又准寶劍以劍爲先也此劍普通蒔繪也

○按ズルニ清涼殿ノ御劍ハ畫ノ御座ノ御劍ト稱スルモノナリ此劍ヲ以テ寶劍ニ擬セシコト二十餘年トアルニ據レバ後鳥羽天皇ノ建久元年庚戌ヨリ土御門天皇ノ承元四年庚午ニ至ル迄二十一年間用キラレシナリ下ニ引ケル心記ヲ考フベシ畫御座御劍ハ別ニ其條アリ參看スベシ

以畫御座御劍及祭主所進爲寶劍